

平成23年3月19日

高等学校保護者 各位
生徒の皆さんへ

日本大学高等学校
校長 久保木文夫

平成22年度「生徒による授業評価アンケート」の実施結果について

時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育に御理解を賜り深く感謝いたしております。

さて、本校では今年度も、全校生徒の協力を得て「生徒による授業評価アンケート」を10月に実施いたしました。アンケート項目は「生徒自身に係わる質問」(10問)「各科目の授業に対する評価」(8問)の二つで、全18問から構成されています。

また、平成20年度から今年度までの3年間のアンケート結果の比較も行いました。

本校では、このアンケート結果を基に、よりよい授業作りに向け改善を図っておりますので、今後とも御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結果概要

1 生徒自身に係わる質問

① 平成22年度結果

設問別回答状況を御覧ください。設問2「始業前に授業を受ける態勢ができています」(78.8%)、設問3「授業に集中することができています」(76.4%)、設問4「板書はしっかりノートにとっている」(90.4%)、設問6「宿題・課題を期限までに提出している」(80.1%)これら4項目では「あてはまる、大体あてはまる」がおおむね高い比率を示しています。この点からはほとんどの生徒の皆さんが授業に真面目に取り組んでいることが分かります。また、これらの比率は、昨年度と比較しますといずれも1.6%~4.5%高くなっており、授業への取り組みに改善が認められます。

その反面、設問1「授業の予習・復習をしている」(31.8%)、設問5「授業で分からなかった点は質問している」(47.7%)、設問7「テストで出来なかった問題の復習をしている」(37.6%)これら3項目では「あてはまる、大体あてはまる」が低い比率を示しています。これらの結果は昨年度と比較しますと、設問1(+0.4%)、設問7(+4.7%)と、やや改善が見られますが、設問5(-0.5%)と低くなっているものもあり、生徒の皆さんの学習への積極的な取り組みを強く望みたいところです。

なお、昨年度から加えられた設問8「学業と部活動が両立できている」については昨年度より0.4%低い63.3%にとどまっており、本校では「文武両道」を教育方針として掲げておりますので、より多くの生徒が学業と部活動の両立ができるよう学校を挙げて最大限のサポートをしております。

また、同じく昨年度から加えられた設問9「友人関係がうまくいっている」(89.3%)と設問10「学校生活が充実している」(80.8%)の2項目では「あてはまる、大体あてはまる」が高い比率を示していますが、昨年度と比較しますと、設問9(-1.0%)、設問10(-3.0%)と、いずれも低くなっており、学習に対する姿勢の改善とは裏腹な結果となっている点が心配です。本校はこの点を含めすべての設問でDの回答が0%になるよう教育環境等のさらなる向上に向け取り組んでまいります。

② 3年間の比較(ただし、設問8、設問9は昨年度からの設問)

今年度の結果を2年前の平成20年度の結果と比較しますと、8項目のうち「あてはまる、大体あてはまる」の比率が高くなっている項目は設問2(+5.9%)、設問3(+2.2%)、設問4(+1.7%)、設問6(+6.1%)、設問7(+0.3%)の5項目、低くなっているのが設問1(-3.5%)、設問5(-1.6%)の2項目でした。ただし、大きく下がっている設問1「授業の予習・復習をしている」については、生徒の皆さんの自覚によるところが大きい内容ではありますが、本校としても最重要課題として捉え、早速改善に向けた方策を検討してまいります。

2 各科目の授業に対する評価（教科全体）

① 平成22年度結果

8項目の設問のうち「あてはまる、大体あてはまる」の比率が80%を超えたのは設問2「先生の声は聞きとりやすい」（84.4%）、設問5「質問への対応が丁寧である」（83.5%）、設問7「先生の授業に対する熱意が感じられる」（83.0%）、設問8「総合的に評価してこの授業に満足している」（81.3%）の4項目でした。

一方、設問1「授業は分かりやすい」（77.0%）、設問3「板書は見やすい」（78.4%）、設問4「授業を進める速さはちょうどよい」（79.8%）、設問6「小テストや宿題で、より授業が理解できた」（76.2%）の4項目では「あてはまる、大体あてはまる」の比率が80%を下回っております。これらの比率も確かにそれほど低くはなく、おおむね生徒の皆さんの授業への満足度は維持できていると受け取れます。しかし、すべての設問で少なくとも「あてはまる、大体あてはまる」と回答してもらえよう、この結果を真摯に受け止め、更なる授業改善に向け各教科で十分に検討してまいります。

② 3年間の比較

3年間の結果を概観しますと、すべての設問の結果にそれほど大きな変化が見られません。それは「あてはまる、大体あてはまる」の比率ばかりでなく、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の比率についても同様です。ただし、この3年間でわずかでも改善が比率で確認できるものは、設問5「質問への対応が丁寧である」（+0.4%）と設問6「小テストや宿題で、より授業が理解できた」（+1.2%）のわずか2項目だけです。それ以外の項目では0.6%～1.6%低くなっております。「生徒による授業評価アンケート」の実施の目的は、よりよい授業作りに向けた改善を図るためですから、この結果を重く受け止め、次年度に向け各教科での検討はもちろんのこと、学校をあげて改善に向けた努力を払ってまいります。

3 学習活動及び学校生活全般に対する意見や要望

① 平成22年度結果

アンケート用紙に設けられた意見や要望欄にも記入がありました。内容は主として①わかりやすい授業をしてほしい、②質問にはきちんと答えてほしい、③板書を丁寧にわかりやすくしてほしい、④教える先生によって大きな違いが出ないようにしてほしい、⑤授業をもう少しゆっくり進めてほしい、などでした。

なお、生徒の皆さんが特定の教員に対して書かれた意見や要望は、書かれたとおりにすべて活字に打ち直し、各教員ごとに配布した『教員別集計結果表』に添付し、その改善を求めています。

② 3年間の比較

授業に対する意見や要望は、例年主として上記のようなもので、この3年間で大きく変化した点は見られません。また、記入率が学年が上がるごとに減少する点も同様です。

ただし、今年度の記入率は38.9%と、昨年度の記入率26.9%を大きく上回りました。これは記述部分の質問内容が「本校での学習活動及び学校生活全般に対して意見や要望があれば、書いてください」と、従来の「学習活動」に限定されていたものから、今年度は「学校生活全般」にまで広げられたからだと思われれます。

ただし、前年度にも学校生活について「部活動の時間を短縮してほしい」との要望の記述があり、これは教職員全員で討議して、午後7時の下校時間が遵守できる活動時間にいたしました。

今年度は「コートなしでもマフラーをつけさせてほしい」との要望があり、許可する方向で3学期は試行期間に入っております。

こうした意見や要望につきましても、改善を図るため、その内容を「行事について」「生活指導について」「教科指導について」「学校への要望」の4項目に分類した資料を、全教職員に配布し、学校を挙げて今後の教育活動全般の改善に活かす努力を払っております。

以上